

## 第2学年国語科学習指導案

単元名 「筆者になりきって文章を書き、読み合おう」 ～表現の工夫を読み取ろう～

教材名 「神奈川沖浪裏」(東京書籍 新しい国語2)

### 1 単元について

佐賀県の中学2年生の実態として、平成22年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、「読むこと」において課題が多いことが分かった。とりわけ「目的に応じて必要な情報を読み取り、自分のものの見方や考え方に生かす」ことの正答率は期待正答率を下回っている。この結果から、書かれている内容と書き方(表現の仕方)について考えをもたせるような指導の工夫を行う必要があると考える。

生徒は1年生で「分かりやすく書こう」「分かりやすく話そう」を学習し、伝えたい内容を効果的に表現する方法を学んだ。また、「脳の働きを目で見てみよう」「ハチドリ不思議」からは、文章の構成や情報の読み取り方を学んだ。更に、2年生になり「小さな労働者」の学習を通して、読み取った情報を再構成する学習をしている。

本教材は、葛飾北斎の浮世絵「富嶽三十六景」の作品の1つ「神奈川沖浪裏」の魅力の説明する文章である。今にも動き出しそうな迫力を伝えるために、筆者の視点は、大波から舟、舟に乗っている人から富士山へと次々に移動する。さらに、仏様やお天道様という実際には描かれていないものへと広がりを見せる。また、文体は平易で親しみやすく、擬音語及び擬態語が効果的に使用されている。これらのことから筆者のものの見方、感じ方、想像の広げ方を基に書かれた本教材は、文章の特徴を捉えて、その効果を実感する学習に適した教材であると考えられる。

本単元では、絵を説明する文章の表現の工夫を読み取り、その読み取りを生かして「富嶽三十六景」の他の作品を説明する「なりきり作文」を書くこと(C読むこと(2)イ)を言語活動として設定する。スモールステップで学習活動を明確に示したワークシート等の学習資料を用いることで、一人一人の言語能力に応じて言語活動を充実させるようにしたい。

### 2 単元の目標

- (1) 筆者の表現の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもととする。(関心・意欲・態度)
- (2) 文章の展開に着目し、表現の工夫とその効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。(読むこと)
- (3) 書き手の意図に応じて、表現の工夫や展開の違いがあることを理解できる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### 3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べる言語活動を通じた指導[C読むこと(2)イ]		
1 筆者の表現の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもととしている。	1 文章の展開に着目し、表現の工夫とその効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 (C 読むこと(1)ウ)	1 書き手の意図に応じて、表現の工夫や展開の違いがあることを理解している。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ))

4 指導と評価の計画(全4時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	1	1 単元の目標を知る。 2 学習計画を知り、見通しをもつ。 3 チェックシートに回答して、身に付けたい力について考える。 4 「なりきり作文」を書くための読みの観点を考える。 5 教材文の表現の工夫とその効果について考える。	○ 身に付けたい力を数人に発表させ、単元の学習でどんな力を付けるかという目的意識を明確にさせる。 ○ 既習の学習内容を手掛かりにして考えさせる。	関－1 筆者の表現の工夫を読み取り、自分の考えをもととしている。 【ワークシート②の記述】
2	2	6 教材文の表現の工夫がもたらす効果について考え、全体で共有する。 7 読み取った表現の工夫を絵に書き込んで、その効果を確認する。 8 「なりきり作文」を書くための絵を選び、表現の工夫を書き込む。	○ 表現の工夫がもたらす効果について補足説明を行う。 ○ 擬音語、擬態語や視点の動きに着目させる。 ○ 選んだ絵に擬音語、擬態語や視点の動きなどを考え、書き込むよう指示する。	読－1 文章の展開に着目し、表現の工夫とその効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 言－1 書き手の意図に応じて、表現の工夫や展開に違いがあることを理解している。 【ワークシート②③の記述】
	3	9 ワークシート④を用いて赤瀬川氏になりきって「なりきり作文」を書く。 10 自己評価をし、ワークシート⑤に表現の工夫をした部分とその効果について記述する。	○ 教材文の表現を生かしながら、想像力を働かせて書くよう心掛けさせる。 ○ 自分が書いた文章を再読させることで、身に付けた力を認識させる。	関－1 筆者の表現の工夫を読み取り、自分の考えをもととしている。 読－1 文章の展開に着目し表現の工夫とその効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 【ワークシート⑤の記述】
3	4	11 同じ絵を選んで書いた作品を読み合う。 12 付せんを使って交流する。 13 振り返りシートを読み、考えを深める。 14 チェックシートに2回目の回答を行い、身に付けた力を振り返ると共に、今後にかかす場面を考えさせる。	○ どのような工夫がされているかを評価しながら読ませることを繰り返すことで、書き手の意図への迫り方を体得させる。 ○ 表現の効果が読み手に伝わっているかを振り返らせる。 ○ 学んだことを振り返らせ、今後の学習や生活にかかす場面を想起させる。	読－1 文章の展開に着目し、表現の工夫とその効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 【交流シートの記述】 関－1 筆者の表現の工夫を読み取り、自分の考えをもととしている。 【振り返りシートの記述】

5-1 1/4時の指導計画

(1) 目標

- ・ 読みの観点を基にして、筆者の表現の工夫を読み取り、自分の考えをもととする。

(2) 展開

	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況にある生徒への手立て
導 入	1 単元の目標を知る。	学習 計画表	○ 単元の目標と学習の流れを確認する。	
	○ 筆者になりきって文章を書き、読み合おう。～表現の工夫を読み取ろう～			
展 開	2 学習計画を知り、見通しをもつ。	学習 計画表	○ 学習計画表を提示する。	
	3 チェックシートに回答して、身に付けた力について考える。	ワーク シート①	○ 「神奈川冲浪裏」の絵を拡大して黒板に提示する。 ○ ワークシート①を生徒に配布して意欲を喚起すると共に、単元で行う言語活動の見通しをもたせる。	
	4 本時の目標を知る。	チェック シート	○ 身に付けた力を数人に発表させ、単元の学習でどんな力を付けるかという目的意識を明確にさせる。	
		学習 計画表	○ 本時の目標と学習の流れを確認する。	
○ 「読みの観点」を基にして文章を読み、表現の工夫を読み取ろう。				
	5 教材文を読んで、筆者になりきって「なりきり作文」を書くための「読みの観点」を考える。	ワーク シート②	○ 形式段落に分けさせ、全体で確認後、個人の黙読を行わせる。 ○ 既習の学習内容を手掛かりに考えさせ、「読みの観点」を黒板に提示し、ワークシート②に記入させる。	
	6 教材文「神奈川冲浪裏」を読んで、教材文の表現の工夫とその効果について考える。 〔手順〕 1) 各自で黙読し、「読みの観点」に該当する部分に線を引きながら読む。	ワーク シート②	○ 「読みの観点」について、形式段落①を使って表現の工夫とその効果について全体で確認後、個人で考えさせるようにする。 ※ 線の種類はワークシート②を使って確認する。	関-1 「読みの観点」を基にして、筆者の表現の工夫を読み取り、自分の考えをもととしている。 【ワークシート②の記述】 「読みの観点」の読み取り方について具体的に示し、個別指導を行う。

	<p>2) 3つの「読みの観点」に添ってグループで話し合い、ペンで色分けして線を引く。</p> <p>3) 線を引いた部分を短冊に書き出す。</p> <p>4) 全体で交流する。</p>		<p>○ 個人の意見を基に、「読みの観点」が表れている表現を、観点ごと色分けしてワークシート②に線を引かせる。</p> <p>○ 話し合いでは、全員に参加意識をもたせるために役割分担をさせる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">例：司会, まとめ, 計時, 発表</p> <p>○ 教師が形式段落をグループごとに指定し、分担した形式段落の表現の工夫を読み取らせるようにする。</p> <p>○ 短冊を黒板に貼らせる。</p> <p>○ 全体で短冊を「読みの観点」ごとに整理する。</p>	
まとめ	6 次時の見通しをもつ。	学習 計画表	○ 次時の予告をする。 (準備：色ペン)	

【板書例】

	<p>形式段落 ③</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〜ある。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〜いる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〜か。</div> </div> <p>形式段落 ②</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〜である。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〜いる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〜いない。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〜のだ。</div> </div> <p>形式段落 ①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">① 文体</div>		<p>② 多用されている言葉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px;"> <p>次の瞬間</p> </div>		<p>③ 特徴的な表現</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px;"> <p>ザンファン！</p> <p>ぼっと</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50px; margin: auto;">以下略しています。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; margin: auto;">カメラ</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; margin: auto;">かっちり</div>		
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>目標…「読みの観点」を基にして文章を読み、表現の工夫を読み取る。</p> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">筆者になりきって文章を書き、読み合おう ～表現の工夫を読み合おう～ 神奈川沖浪裏 赤瀬川玄平</p>					

5-2 2/4時の指導計画

(1) 目標

- ・ 教材文「神奈川冲浪裏」の文章の展開に着目し、表現の工夫とその効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。
- ・ 書き手の意図に応じて、表現の工夫や展開の違いがあることを理解することができる。

(2) 展開

	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況にある生徒への手立て
導入	1 本時の目標を知る。	短冊 学習計画表	○ 前時を想起させるために短冊を再配布し、黒板に貼らせた後、本時の目標と学習の流れを確認する。	
			○ 表現の工夫とその効果を読み取ろう。 ○ 表現の工夫や展開に注目して読もう。	
展開	2 教材文の表現の工夫がもたらす効果について考え、全体で共有する。  「読みの観点」 ① 文体 常体・疑問文・文の長さ ②多用されている言葉 次の瞬間・富士山・波・舟・人 ③特徴的な表現 擬音語・擬態語・擬人法	ワークシート②  学習の手引き [表現の工夫]	○ 前時に各グループから出された意見(短冊)を黒板で確認し、全体でその内容を共有し合う。 ○ 生徒が見つけた表現の工夫とその効果について整理し、学習の手引きを用いて次のように説明する。  ①文体について ・既習教材の文体と比較して、特徴とその効果を確認する。 ②多用されている言葉について ・「次の瞬間」という言葉により筆者の絵のとらえ方が伝わることや、動的な表現につながることを確認する。 ・メインとしての「富士山」という描かれ方を確認する。 ※波→舟→人という筆者の視点の動きを確認する。 ③特徴的な表現について ・学習の手引きで説明する。 ※特に「擬音語」「擬態語」「擬人法」に着目させる。既習の特徴は手引きで確認させる。	学習の手引きを使って個別指導を行う。
	3 読み取った表現の工夫を絵に書き込んで、その効果を確認し、「次の瞬間」のもつ効果を再確認する。	ワークシート③		

	<p>[手順]</p> <p>1) 視点の動く順番を数字で書き込む。</p> <p>2) 擬音語・擬態語・擬人法を使った表現を書き込む。</p> <p>3) 「次の瞬間」どうなるかを教材文から箇条書きで書き出す。</p> <p>4 「なりきり作文」を書くための絵を選び、表現の工夫を書き込む。</p> <p>[手順]</p> <p>1) ワークシート①の6枚の絵から、1枚の絵を選ぶ。</p> <p>2) ワークシート④を用いて、選んだ絵の「次の瞬間」どうなるかを想像して書く。</p> <p>3) 視点を動かす順番を数字で書き込む。</p> <p>4) 擬音語・擬態語・擬人法を使った表現を書き込む。</p>	<p>色ペン</p> <p>ワークシート①③④</p>	<p>○ 絵「神奈川沖浪裏」に擬音語・擬態語・擬人法・視点の動きを書き込ませることで、視覚的に表現の工夫による効果を再認識させる。</p> <p>○ ワークシート③を拡大し、黒板へ掲示する。</p> <p>○ 記入例を示すことで、活動内容を視覚的に捉えさせる。</p> <p>○ 「次の瞬間」へ向かう筆者の想像に着目させる。</p> <p>○ 「なりきり作文」のために選んだ絵に、ワークシート③を参考にして、書き込ませる。</p> <p>○ 動的な表現にするための表現の工夫をするよう心掛けさせる。</p>	<p>読ー1 教材文「神奈川沖浪裏」の文章の展開に着目し、表現の工夫とその効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。</p> <p>言ー1 書き手の意図に応じて、表現の工夫や展開の違いがあることを理解している。</p> <p>【ワークシート②③の記述】</p> <p>「次の瞬間」を想像するための擬音語・擬態語・擬人法、視点の動きについてワークシート③を用いて個別指導する。</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 本時の振り返りをし、自己評価をする。</p> <p>6 次時の見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>○ 本時の学習内容を振り返らせ、学習計画表に記入させる。</p> <p>○ 次時の予告をする。</p>	

5-3 3/4時の指導計画

(1) 目標

- ・ 筆者の表現の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもつことができる。
- ・ 「なりきり作文」を書きながら、文章の展開に着目し、表現の工夫とその効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。

(2) 展開

	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況にある生徒への手立て
導 入	1 本時の目標を知る。	学習 計画表	○ 前時を想起させ、本時の目標と学習の流れを確認する。	
	○ 筆者の表現の工夫を自分の表現に生かそう。			
展 開	2 前時で書き込んだ表現の工夫について再確認する。  3 読み取った表現の工夫を生かしながら、「なりきり作文」を書く。  条件 ・原稿用紙の使い方に従い、300～400字で書く。 ・「次の瞬間」を想像させるように表現する。 ・「読みの観点」を表現に生かす。  4 自己評価をし、ワークシート⑤に表現の工夫をした部分とその効果について記述する。	ワークシート④  ワークシート②④⑤  ワークシート⑤ 学習の用紙 [表現の工夫]	○ 座席の近い者同士で交流させる。  ○ 「なりきり作文」を書く際に参考にする部分を確認させる。 ○ 教材文の表現を生かしながら、想像力を働かせて書くよう心掛けさせる。 ○ 条件を提示し、確認しながら書くよう指示する。 ○ 原稿用紙の使い方の補助資料が掲載されている教科書のページを板書する。  ○ 自分が書いた文章を再読させることで、身に付けた力を認識させる。	関-1 筆者の表現の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもとうとしている。 【ワークシート⑤の記述】 「次の瞬間」についての記述に注目させながら個別指導する。  読-1 「なりきり作文」を書きながら、文章の展開に着目し、表現の工夫とその効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。  前時に配布した学習の手引きを参考に、意図した効果を具体的に書くよう指示する。 【ワークシート⑤の記述】
ま と め	5 本時の振り返りをし、自己評価をする。  6 次時の見通しをもつ。	学習 計画表	○ 本時の学習内容を振り返らせ、学習計画表に自己評価を記入させる。 ○ 次時の予告をする。	

5-4 4/4時の指導計画

(1) 目標

- 文章の展開や表現の工夫に気付き、その効果について考えながら読むことができる。
- 学習を振り返り、身に付けた力を認識して今後に生かそうとする。

(2) 展開

	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況にある生徒への手立て
導 入	1 本時の目標を知る。	学習 計画表	○ 本時の目標と学習の流れを提示する。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の展開や表現の工夫のもつ効果に注目して読もう。</li> <li>○ 学習を振り返り、身に付けた力を振り返ろう。</li> </ul>			
展 開	2 同じ絵を選んで書いた作品を読み合う。 1) 同じ絵を選んだ者とグループを作る。 2) 読みの観点ごとに4段階で相互評価する。	ワーク シート⑤  交流 シート	○ 動かない絵の「次の瞬間」を感じさせるための表現の工夫を考えながら読ませることを繰り返すことで、書き手の意図への迫り方を体得させる。 ○ 「表現の工夫をした部分とその効果」を先に読むよう指示する。	読-1 「なりきり作文」の展開や表現の工夫をとらえ、その効果について考えながら読むことができている。 <b>【交流シートの記述】</b> 振り返りシートのアドバイスに注目させ、交流するよう働きかける。
	3 付せんを使って交流する。 1) 交流シートの読みの観点をもとに、良い所とアドバイスを具体的に付せんに記入する。 2) 付せんを交換し、感想を交流させる。	付せん	○ 良い所（ピンク）、アドバイス（青）を付せんに書いて渡すよう指示する。 ○ 交流シートにある記述例を参考にさせ、具体的に記述させる。	
	4 振り返りシートを読み、考えを深める。	振り返り シート	○ 数名のアドバイスを紹介し、よりよい表現を全体で共有する。 ○ 表現の工夫による効果が読み手に伝わっているかを確認させる。	
	5 チェックシートに2回目の回答を行い、身に付けた力について振り返る。	チェック シート	○ 今後の学習で更に伸ばしていきたいと考える力や、身に付けたいと考える力を認識させる。	
ま と め	6 単元を振り返る。	振り返り シート	○ 単元の学習を振り返り、今後の学習や生活に生かしていく場面を想起させる。	関-1 身に付けた力を認識し、その力を生かす場面を具体的に考えようとする。 <b>【振り返りシートの記述】</b> 生活に即した例を示しながら個別指導を行なう。